

参加型調査

ハクチョウの渡りを追いかける 白鳥リアルタイム・ウォッチが始まります

神山和夫

暖かかった今年の秋でしたが、ようやく寒気が強まりはじめ、冬の気配が近づいてきました。ハクチョウは「冬の使者」と呼ばれていますが、コハクチョウの第一陣は10月になると日本にやって来ます。初めに北海道北部に到着し、本州に渡ると太平洋側と日本海側に分かれますが、多くは日本海ルートで南下して、最終的には新潟平野から琵琶湖にかけての地域で越冬します。オオハクチョウの飛来は少し遅く、10月下旬に北海道東部に姿を現します。彼らの越冬地はコハクチョウよりも北にあり、ほとんどは北海道から本州太平洋岸の福島県以北の地域で冬を越します。

2012年の飛来状況

図1は今年の稚内大沼のコハクチョウの個体数です。数が毎日大きく変化していることから、コハクチョウが非常に短い時間しか留まらずに通過していることが見て取れます。秋の南下速度は速く、10月7日には新潟平野北部のお幕場大池(おまくばおおいけ)に11羽が初飛来しています。そして稚内のコハクチョウは11月中にはほとんどいなくなってしまう。

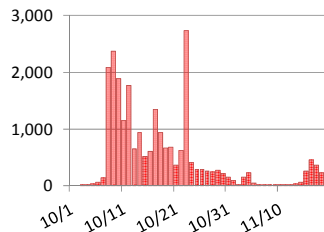


図1. 2012年秋の稚内大沼のコハクチョウ個体数。

図2は、稚内大沼、上池・下池(山形)、佐潟(新潟)の最近3年間の飛来時期で、毎回の調査の個体数を積算した

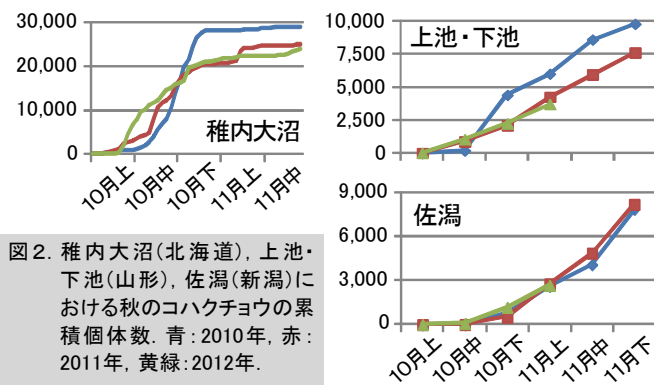


図2. 稚内大沼(北海道)、上池・下池(山形)、佐潟(新潟)における秋のコハクチョウの累積個体数。青: 2010年、赤: 2011年、黄緑: 2012年。

累積個体数のグラフです。稚内では毎日調査がされているので、10月前半に過去2年に比べて多くの個体が到着したことが分かります。他の2か所は月3回の調査記録ですが、この3年間は同じような増加傾向をしています。

各地の観察でハクチョウ類の渡りを追う

ハクチョウ類は飛来地の数が比較的限られていて、メインの渡りルートが南北方向であるため、飛来地の個体数変化を並べてみると、渡りの動きを視覚的に見ることができそうです。



写真1. コハクチョウ。
[Photo by 三木敏史]

そこで、各地のハクチョウ類の数をできるだけリアルタイムにお伝える白鳥リアルタイム・ウォッチのホームページを始めました。掲載地点数は、これからどんどん増やしていきます。皆さんのお近くにハクチョウ飛来地があれば、ぜひ数をお知らせ下さい。毎月1回以上、できれば月の上中下旬の3回のカウントを目標にしています。皆様のご参加を、お願いいたします。

■ 白鳥リアルタイム・ウォッチ

http://www.bird-research.jp/1_katsudo/waterbirds/gankamo/

●コハクチョウ記録提供: 遠島幸吉氏(稚内大沼), 太田威氏(上池), 宮川道雄氏(下池), 鳥獣保護区調査員(佐潟), 中嶋純子氏(お幕場大池)。

ガンカモ類調査交流会を開きました



写真2. ガンカモ交流会 山形県上池・下池

今年のモニタリングサイト1000ガンカモ交流会は、山形県の上池・下池のほりに、この春オープンした鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」で10月28日に開催しました。今回はガン・ハクチョウ類渡来地目録作成を目指して、各地の調査

員の皆さんに普段の調査データに表れないようなガン・ハクチョウ類の餌場の利用や、個体数の季節変化、保全の課題などを発表していただきました。今後、さらに別の地域の情報も集めて、全国目録を作っていきたいと考えています。